

Morbidity and Mortality Weekly Report

Outbreak of *Burkholderia stabilis* Infections Associated with Contaminated Nonsterile, Multiuse Ultrasound Gel — 10 States, May–September 2021

Matthew J. Hudson, MD^{1,*}; Stacy C. Park, MD^{2,*}; Amy Mathers, MD²; Hardik Parikh, PhD²; Janet Glowicz, PhD³; David Dar, MPH⁴; Marjan Nabili, PhD⁴; John J. LiPuma, MD⁵; Amy Bumford⁵; Matthew A. Pettengill, PhD⁶; Mark R. Sterner, Jr.⁶; Julie Paoline, MA⁷; Stacy Tressler, PhD⁷; Tiina Peritz, MS⁸; Jane Gould, MD⁸; Stuart R. Hutter, MS, MPH⁹; Heather Moulton-Meissner, PhD³; Kiran M. Perkins, MD³

MMWR71(48):1517—1521

道宗 担当

とある病院A

「*Burkholderia cepacia complex*(BCC)によるクラスターが8件発生」

8例中少なくとも7症例

→ 病院A入院中に超音波ガイド下処置歴あり

病院Aの非滅菌超音波ジェルを培養検査

→ *B.stabilis*を検出

病院Aの血液検体7

病院Aの腹水検体1

ボトル

} 同一ゲノム配列



本件と画像は関係ありません

2021.7.21

病院Aの例をバージニア州保健局よりCDCに通知

2021.7.7-10の間に、急性期病院Bの患者7名の
BCC感染が明らかに

うち4名が超音波ガイド下経皮的処置

21ロット中2ロットでBCC検出

→ 病院Aと同一ロット

流通している超音波ジェルの汚染が明らかに

その後のCDCの調査

→ 10州で119名の*B. stabilis*感染が判明

中央値:61歳(4日~92歳)

入院から感染検出までの期間:中央値1日(0~118日)

89%が血流感染

68%に発熱、頻脈などの感染徴候

14%が入院中に死亡

(*B.stabilis*感染 2, 敗血性ショック 3, 心停止 2, 呼吸不全 1,
COVID-19感染 1, 鎌状赤血球症 1)

94%が超音波ガイド下侵襲的処置

26%の感染症例で感染ロットを使用

報告のあった全施設に感染ロットが納入されていた

CDC,FDA

2021.8.4 製造メーカーに勧告し製品の自主回収
細菌混入の原因、範囲は特定されず

2021.8.18 全てのジェル、ローション製品の廃棄勧告

その後のFDAによる回収品調査

13ロット中8ロットで細菌汚染

7ロットで*B.Stabilius*検出

さらに1ロットから*Bacillus circulans*検出

静脈カテーテル留置などの侵襲的処置

→ 非滅菌ジェルが頻用されている事態が明白化

BCC (*Burkholderia cepacia* complex)

- 水性製剤内の特定の防腐剤、抗菌剤に耐性
- 汚染された製剤、医療製品による感染のリスク
- 過去にも超音波ジェルと関連したBCCのアウトブレイクあり
- 汚染ジェルが侵襲的処置中の針孔から侵入した可能性
- 経皮的処置の準備、処置中 → 使い捨ての滅菌ジェルパッケージを！
- 超音波プローブ、コンソールも洗浄、消毒する必要性
- 検査終了後はジェルを完全に除去する必要性
- 除去後、処置前に皮膚を完全に消毒する必要性

Considerations for the use of ultrasound gel

滅菌ジェルの使用

- 経皮的処置時
(CV穿刺、末梢静脈留置、羊水穿刺、腹水穿刺、組織生検、創処置など)
- 準備～処置中はsingle-useの滅菌ジェルの使用
- これらの処置前の非滅菌ジェルの使用禁止
- 予期せぬ処置などで非滅菌ジェルを使用した場合、ジェルを完全に除去し適切な皮膚消毒処置を
- 傷のある皮膚、処置創の近くには非滅菌ジェルの使用禁止
- 可能なら、エコープローブカバー内に非滅菌ジェルを注入しない



Considerations for the use of ultrasound gel

非滅菌ジェル

- 再充填するな。空になったら捨てる
- 未使用時はきちんと蓋をしろ
- 容器の先端を人や機械に直接触れるな
- 接触予防措置が取られている患者に使用した場合
容器ごと廃棄しろ
- 検査後は皮膚を清潔にし、
残存ジェルを全て拭き取って除去しろ



* 本内容と画像は関係ありません

Considerations for the use of ultrasound gel

超音波診断装置の再処理

- 製造元の指示に従って推奨される洗浄、消毒プロトコルを実施
- 別患者に使用する前に、コンソールおよび患者と直接接触しない部分（ハンドル、ケーブル、コネクタ、ホルダーなど）、及び加温装置や関連するその他重要でない表面を徹底的に洗浄、消毒
- **超音波ジェルおよびコンソールは(患者に)頻繁に触れる表面と見なす**
- 粘膜または損傷した皮膚（経膈、経直腸、経食道の処置での使用等）に使用されるすべてのトランスデューサは、別の患者に使用する前に高レベルの消毒または滅菌が必要

以下、私見ですが

心当たりないですか？

- ジェルボトルの開封日、把握してますか？

1か月以上経過した開封品、捨てたほうが良いのでは？

- 使用後はきちんと蓋をしていますか？

- ボトルキャップの先端を直接皮膚やプローブに触れさせていませんか？

- アルコール含有ジェルでエコーガイド下動脈ライン穿刺をしている人がいますが、まずくないですか？それ、滅菌されているのですか？

(Alineの長期留置時はGLでは皮膚消毒、滅菌手袋装着ですよ)

- エコー下の侵襲的処置をするとき、カバーしてますか？

- ブロック施行時、きちんとプローブカバーしてありますか？
- ブロック施行時、非滅菌ジェルを使用していないですか？
- プローブカバーの内側に非滅菌ジェルを注入していないですか？
- 非滅菌ジェルを患者に使用したあと、しっかりと拭き取っていますか？
- 使用後のプローブ、洗ってありますか？ジェルがついたまま放置してませんか？
- コンソールは拭いてありますか？

今一度、確認してみてください

(該当者は今後Battimanと呼びます)